第12回
日本リーグ
詳報

湧永製薬（男子）大崎電気（女子）がVを奪回

第12回日本リーグは、３月６日栃木、京都、茨城の３会場で最終日を迎え、男子は湧永製薬が５戦全勝で２年ぶり４回目の優勝を飾った。

湧永４勝、大崎電気３勝１敗で迎えた栃木の最終戦は、どちらも勝てば優勝ということで、スタートから両者気迫のこもった攻守を展開、１点を争う好ゲームであった。

前半終了間際、大崎の２分間退場のチャンスに、酒巻、河原の連続速攻で15－13と優位に立った湧永は、後半出だしも大崎ディフェンスの間げきをぬって着実に加点、その後の大崎の反撃もＧＫ井藤の再三にわたる好守などでふり切り、２年ぶりの栄冠を獲得した。

「今日の試合は、エースの玉村をマークされながらも、荷川取らほかの選手がよく頑張ってくれたことＧＫ井藤を含めたディフェンスの勝利。来シーズンもこの勢いを持ち込み、一つ一つ勝って４大タイトルの独占を狙いたい」

と湧永・山本伸二監督。

一方の女子は、前週に大和銀行との全勝対決で２年ぶり３回目の優勝を決めていた大崎電気が、日本ビクターの攻勢を受けて31－32とせり負け、全勝Ｖはならなかった。

男子

湧永製薬が2年ぶり4回目の優勝

◇1月30日（大阪）

大崎電気26〔11－12、15－11〕23大同特殊鋼

〔戦評〕互いに初戦とあって固さの見られる立ち上がりであったが、新装なった大阪府立体育館にいっぱいの観衆の声援を受けて、両チームともすばらしいシュートをさく裂させ、最後まで気の抜けないゲーム展開となった。

ややディフェンス不調の大同に対し、大崎はGK矢内を軸に高い壁とプレス気味な1・5で相手のミスを速攻につなげて、前半15分過ぎに一気に抜け出し、4点差でUターン。後半も10分に2点差まで詰め寄られたが、余裕ある試合運びで逃げ切った。

得	〔大同〕		〔大崎〕	得
0	上村	GK	渡辺	0
0	秋吉	GK	矢内	0
6	田中	FP	松岡	2
1	内藤	FP	大和田	8
8	高村	FP	武田	0
1	市川	FP	首藤	3
2	中本	FP	中田	2
0	河井	FP	山本	4
4	蒲生	FP	越迫	0
1	横浜	FP	菅田	1
0	佐藤	FP	大野	0
0	海江田	FP	宮下	6
23	(0)	PT	(4)	26

（審・島崎、井上）

◇1月31日（埼玉・戸田市）

大崎電気44〔22－15、22－10〕25トヨタ自動車

〔戦評〕トヨタ自動車は、昨年の入替戦で一部に昇格、戦いぶりが注目されたが、初戦でもあり緊張感から立ち上がりミスが目立ち、大崎の宮下、首藤らの力強いプレーに終始押された。

後半、トヨタは速攻と坂口のロングシュートで反撃したが、大味なゲーム展開となり、大崎の豪快なプレーの前に屈した。

尚、この試合で大崎電気はチーム1試合最高得点（従来は大同特殊鋼の42点）の記録を更新した。

得	〔トヨタ〕		〔大崎〕	得
0	中西哲	GK	渡辺	0
0	西井	GK	矢内	0
4	香井	FP	松岡	9
6	川田	FP	大和田	4
0	酒井	FP	武田	1
3	堀江	FP	首藤	4
3	中西㈾	FP	中田	3
0	白坂	FP	山本	6
6	坂口	FP	越迫	0
3	平野	FP	菅田	2
0	徳原	FP	大野	0
0	松尾	FP	宮下	15
25	(3)	PT	(4)	44

（審・斉藤、市瀬）

◇1月31日（神戸）

大同特殊鋼21〔13－6、8－4〕10本田技研鈴鹿

〔戦評〕大同は、立ち上がりから気迫あふれるプレスディフェンスで本田のパス筋を分断し、横浜、佐藤の好ダッシュによる速攻で3連取、5連取とたて続けに得点を重ねた。また、守っても10分過ぎから交替した上村のキーピングが冴え、PT、ノーマークシュートを次々とはじき返してムードを盛り上げ、前半で圧倒的優位に立った。

本田は、コントロールタワー田口を欠いて、今一つリズムに乗れず、ルーキー藤井の高打点シュートで追撃するが、散発で本来のスピードプレーが最後までかみ合わず、大同に終始圧倒され、いいところなく敗れ去った。

得	〔本田〕		〔大同〕	得
0	大畑	GK	上村	0
0	橋本	GK	秋吉	0
0	真砂	FP	田中	4
0	三本松	FP	内藤	2
3	藤井	FP	高村	2
3	立木	FP	市川	0
1	尾上	FP	中本満	0
3	内藤	FP	蒲生	2
0	粟屋	FP	横浜	7
0	山本	FP	佐藤	4
0	山村	FP	中本千	0
0	平子	FP	海江田	0
10	(1)	PT	(7)	21

（審・浅井、山本）

◇1月31日（横浜）

湧永製薬26〔17－11、9－10〕21日新製鋼

〔戦評〕開始10分までは3－1と両チームとも譲らず、緊迫したゲームが展開され、一進一退のすばらしい試合内容になった。前半を10－9の1点リードで折り返した日新は、後半もそのペースを持続。湧永はベテラン生駒を投入し、玉村を生かしながら持戦に持ち込んだ。残り11分で18－18になり、両チームの激しい攻防となったが、最後は総合力で勝る湧永が日新を突き放した。

尚、湧永の選手兼任の監督・山本はこの試合に出ず、采配に専念したため、連続出場試合得点記録は103試合でストップした。

得	〔日新〕		〔湧永〕	得
0	西川	GK	大城	0
0	森田	GK	井藤	0
2	森	FP	生駒	2
0	武田	FP	玉村	7
3	西山	FP	堀田	1
3	高木	FP	志賀	3
2	甲斐	FP	中川	0
7	藤井	FP	荷川取	5
0	日野	FP	奥田	1
1	堀田	FP	楢原	0
2	藤本	FP	酒巻	7
0	野中	FP	河原	1
21	(3)	PT	(3)	26

（審・中山、大出）

◇2月14日（岩手）

大崎電気33〔16－10、17－11〕21日新製鋼

〔戦評〕スタートは両チームともよく打ち、得点の多いゲームを思わせたが、GKはともによく取っているが、多彩な攻撃手段を持つ大崎は、宮下、首藤のロングシュート、大和田、松岡のポストがよい位置から得点を重ねた。

得	〔日新〕		〔大崎〕	得
0	西川	GK	渡辺	0
0	森田	GK	矢内	0
0	森	FP	松岡	4
2	武田	FP	大和田	5
7	西山	FP	武田	2
3	高木	FP	首藤	6
2	甲斐	FP	中田	3
2	藤井	FP	山本	4
0	日野	FP	越迫	1
3	堀田	FP	菅田	2
2	藤本	FP	大野	0
0	野中	FP	宮下	6
21	(6)	PT	(3)	33

（審・菅野、半田）

◇2月20日（四日市）

本田技研鈴鹿26〔14－10、12－11〕21トヨタ自動車

〔戦評〕1部に昇格して2戦目のトヨタ自動車、初戦は大崎電気に大敗したが、この試合は、よく粘りを見せて、善戦した。

先制したのはトヨタで、坂口のシュートでリード。しかし、立ち上がりとともに動きが固く、あま

り点の動かない展開、トヨタはその後8分近くノーゴールで4―1と逆転される。しかし、20分を過ぎてから川田を中心に猛反撃、9―5から12―11と1点差に追い上げる。

後半は、立ち上がり本田・内藤が先制、その後一進一退の展開となったが、本田は山本、立木、粟屋といったところが、着実にシュートを決めてじりじりと引き離し、終盤粘るトヨタをふり切った。

得〔トヨタ〕		
0	井	西
0	森	富
0	井	香
7	田	川
0	井	酒
2	江	堀
2	西	中
6	口	坂
4	野	平
0	原	徳
0	尾	松
0	村	田
21		(1)

GK FP（審・細井、板倉）PT

得〔本田〕		
0	大	畑
0	橋	本
4	真	砂
0	三 本	松
1	藤	井
5	立	木
1	尾	上
2	内	藤
7	粟	屋
0	田	口
3	山	本
3	山	村
26		(3)

◇2月21日（福井）

日新製鋼22〔13−8 9−11〕19トヨタ自動車

〔戦評〕日新は早いボール回しからのポストプレーや足を生かしたディフェンスからの速攻で着々と加点し、余裕のある試合運びとなる。一方トヨタは攻めあぐみ、ノーマークシュートもGKの好守に阻まれた。

後半、トヨタは坂口のロングシュート、そしてポスト、速攻と3連得点、12分には1点差まで詰め寄ったが、日新が要所要所で西山、高木のシュートで加点し底力を示した。

得〔トヨタ〕		
0	井	西
0	森	富
2	井	香
8	田	川
0	井	酒
1	江	堀
4	西	中
3	口	坂
1	野	平
0	原	徳
0	尾	松
0	村	田
19		(4)

GK FP（審・越田、庄司）PT

得〔日新〕		
0	西	川
0	森	田
0		森
5	武	田
2	西	山
8	高	木
1	甲	斐
1	藤	井
0	日	野
2	堀	田
3	藤	本
0	野	中
22		(2)

◇2月21日（岐阜）

本田技研鈴鹿25〔15−15 10−9〕24大崎電気

〔戦評〕前半は本田ペースで試合が運んだが、終了5分前に本田・内藤が退場となる間に、大崎、宮下のロングシュートが決まり13―13の同点となる。

後半、本田は4連続ゴールでペースをつかんだかに見えたが、大崎も3連続ゴールなどで粘りをみせ、一進一退の攻防が続いた。後半終了1秒前に、1点差で大崎がフリースローをもらい、最後の同点をねらったが、大崎、宮下のロングシュートは、惜しくも本田GK橋本に阻止され、本田が勝利を飾った。

得〔大崎〕		
0	辺	渡
0	内	矢
7	岡	松
4	田	大 和
0	田	武
3	藤	首
1	田	中
3	本	山
0	迫	越
0	田	菅
0	野	大
6	下	宮
24		(3)

GK FP（審・岩永、岩本）PT

得〔本田〕		
0	大	畑
0	橋	本
4	真	砂
0	三 本	松
0	藤	井
7	立	木
0	尾	上
5	内	藤
2	粟	屋
2	田	口
0	山	本
5	山	村
25		(1)

◇2月21日（青森）

湧永製薬21〔10−6 11−5〕11大同特殊鋼

〔戦評〕プレーイングマネージャーの蒲生自らがゴールに立ち、湧永に一矢報いるべく立ち上がった大同であったが、攻め手に今一つ決め手がなく、玉村を中心にロング、ミドル、ポスト、サイドと変幻自在の攻撃展開を見せた湧永が快勝した。

大同は、エース高村が無得点という結果で、これが湧永との10点差を生んだといえる試合内容であった。

得〔大同〕		
0	村	上
0	吉	秋
0	中	田
4	藤	内
0	村	高
1	川	市
1	本	中
0	井	河
1	生	蒲
2	浜	横
1	藤	佐
1	田	海 江
11		(1)

GK FP（審・菅野、半田）PT

得〔湧永〕		
0	大	城
0	井	藤
0	生	駒
8	玉	村
2	堀	田
0	志	賀
0	中	川
0	内	田
1	荷 川	取
4	奥	田
0	楢	原
6	河	原
21		(9)

◇2月27日（東京・駒沢）

湧永製薬25〔14−9 11−8〕17本田技研鈴鹿

〔戦評〕前週、全勝の大崎に土をつけた本田は、この試合に勝てばV2をほぼ手中にできるところだったが（同勝点は対戦者間勝敗を優先）、スタートで湧永の気迫のこもった攻撃の前に劣勢を強いられ、イージーミスを連発して湧永の速攻を許し、湧永が大きく優位に立った。これですっかり気をよくした湧永は、多彩なシュートで得点をあげる玉村を中心に、志賀、荷川取をポストに据えてのコンビプレーで着実に加点。後半はGK井藤を軸とする手堅いディフェンスも冴えて一気に勝負を決めた。

得〔本田〕		
0	畑	大
0	本	橋
1	砂	真
0	松	本 三
1	井	藤
0	木	立
2	上	尾
3	藤	内
4	屋	粟
0	口	田
0	本	山
6	村	山
17		(5)

GK FP（審・後藤、島田）PT

得〔湧永〕		
0	井	藤
0		徐
0	生	駒
8	玉	村
0	堀	田
3	志	賀
1	中	川
2	荷 川	取
5	奥	田
0	楢	原
4	酒	巻
2	河	原
25		(0)

◇2月28日（神奈川・秋葉台）

湧永製薬33〔13−7 20−9〕16トヨタ自動車

〔戦評〕トヨタ自動車のエース坂口の開始早々のロングシュートは

得〔トヨタ〕		
0	井	西
0	森	富
2	井	香
4	田	川
0	井	酒
2	江	堀
4	西	中
3	口	坂
1	野	平
0	原	徳
0	尾	松
0	村	田
16		(1)

GK FP（審・千野、後藤）PT

得〔湧永〕		
0	大	城
0	井	藤
0	生	駒
10	玉	村
0	堀	田
2	志	賀
3	中	川
0	内	田
4	荷 川	取
4	奥	田
3	酒	巻
7	河	原
33		(6)

枠の外に、一方、湧永製薬・玉村のロングシュートは枠内にきっちり決まり、この試合の行方を感じさせた。
　後半の半ばで大差がついたが、内容的にはなかなかの好ゲームであった。

◇2月28日（山口）

日新製鋼20〔10―8／10―9〕17大同特殊鋼

〔戦評〕10分過ぎまで両チームともディフェンスのマークが厳しく、3―3の同点。11分、12分と大同に連続してPTがあったが、日新GKの好守に阻まれ、日新のペースとなった。両チームGKの好守などで白熱した展開となったが、10―8と日新の2点リードで前半を終了。
　後半に入って、日新は3点連取。しかし大同も4点を連取、10分過ぎには14―12と日新がリード。その後も日新のリードで激しい攻防となったが、残り4分、大同は1点差まで詰め寄ったが、とうとう追いつくことができず、逆に日新が3点を連取して逃げ切った。

得	〔日新〕		〔大同〕	得
0	西川	GK	上村	0
0	森田	GK	秋吉	0
0	森	FP	田中	0
1	武田	FP	内藤	0
7	西山	FP	高村	2
5	高木	FP	市川	6
2	甲斐	FP	中本満	1
2	藤井	FP	河井	0
1	日野	FP	蒲生	2
1	堀田	FP	中本千	3
1	藤本	FP	名取	2
0	野中	FP	海江田	1
20	(2)	PT	(3)	17

〔審・古富 岡村〕

◇3月5日（岩井総合体育館）

本田技研鈴鹿22〔9―11／13―10〕21日新製鋼

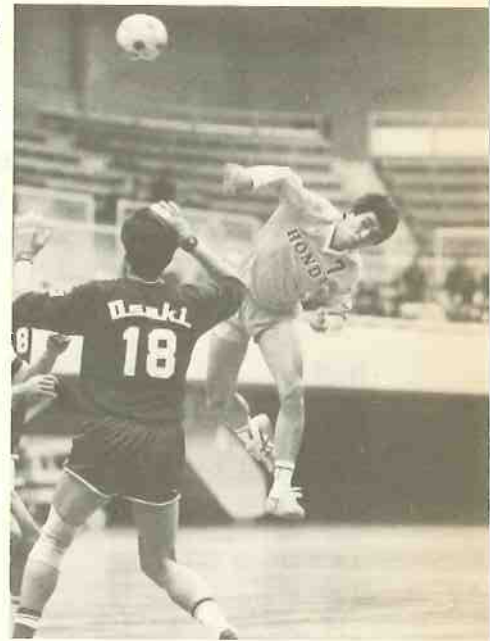
〔戦評〕前半立ち上がりから双方とも闘志あふれる激しいプレーを展開したが、お互いにペースをつかみ切れずに、日新の2点リードで前半を終了した。
　後半に入ると、本田のディフェンスが良くなり、日新に決定的なチャンスを与えず、日新のパスミスなどに乗じて19分に逆転した。その後は双方とも一歩も譲らず1点を争う好ゲームとなった。本田1点リードのまま残り3秒前、日新はゴール正面から最後のフリースローのチャンスがあったが、シュートまでもっていくことができず、本田がそのまま1点差を守って逃げ切った。

得	〔本田〕		〔日新〕	得
0	大畑	GK	西川	0
0	橋本	GK	森田	0
0	真砂	FP	森	0
0	三本松	FP	武田	2
2	藤井	FP	西山	6
1	立木	FP	高木	3
0	尾上	FP	甲斐	3
6	内藤	FP	藤井	2
3	粟屋	FP	日野	0
1	田口	FP	堀田	3
0	山本	FP	藤本	2
9	山村	FP	野中	0
22	(4)	PT	(3)	21

〔審・宮沢 小林〕

◇3月5日（京都）

大同特殊鋼30〔16―10／14―5〕15トヨタ自動車

〔戦評〕立ち上がり早々から大同の気迫は充実し、トヨタのミスを逆襲につなげ、5分以降からの5分間で6点を連取、若いトヨタの気力を断ち切ってしまった。大同は、名取、海江田ら若手のはつらつとしたプレー、高村、市川ら主軸のガッツあふれるプレーと蒲生のアシストで着々と点差を広げていった。
　トヨタは、川田のパワー、坂口の高打点シュート、香井のテクニックで反撃を図るが、大同・秋吉の好キーピングに阻まれ、後半は散発の5点に押さえられて完敗した。

得	〔大同〕		〔トヨタ〕	得
0	上村	GK	西井	0
0	秋吉	GK	富森	0
1	田中	FP	香井	5
1	内藤	FP	川田	6
5	高村	FP	酒井	0
5	市川	FP	中西	2
0	中本	FP	白坂	0
1	河井	FP	坂口	2
2	蒲生	FP	平野	0
4	中本	FP	徳原	0
7	名取	FP	松尾	0
4	海江田	FP	田村	0
30	(5)	PT	(3)	15

〔審・浅井 山本〕

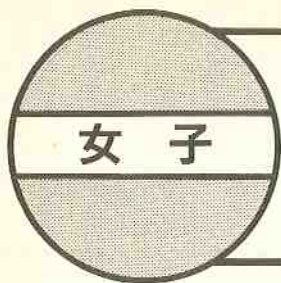
◇3月5日（栃木）

湧永製薬30〔15―13／15―14〕27大崎電気

〔戦評〕この試合に勝てば優勝ということで両チームともスタートから気迫のこもったプレーを展開し、1点を争う好ゲームとなった。前半終了間際、大崎の宮下が退場となり、このチャンスに湧永は酒巻、河原の連続速攻で15―13で前半を折り返した。
　後半に入って、湧永は着実に荷川取、玉村が加点し、懸命に追いすがる大崎を振り切った。

得	〔湧永〕		〔大崎〕	得
0	大城	GK	岡部	0
0	井藤	GK	矢内	0
1	生駒	FP	松岡	3
7	玉村	FP	大和田	1
0	志賀	FP	武田	0
0	中川	FP	首藤	6
0	内田	FP	中田	6
10	荷川取	FP	山本	3
3	奥田	FP	越迫	0
0	楢原	FP	菅田	2
5	酒巻	FP	大野	0
4	河原	FP	宮下	6
30	(2)	PT	(2)	27

〔審・斉藤 三技〕

女子

大崎電気が2年ぶり3回目の優勝

◇1月30日（大阪）

大和銀行25 〔13―9, 12―11〕 **20 日本ビクター**

〔戦評〕序盤は、双方ともイージーミスが目立ち、ボールが手についていなかったが、地の利で大和が一歩リード。しかしビクターも全員がよく走り，中盤ではフリースローで丸田一人に頼る大和を逆転、主導権を握ったが、今一息追い討ちがなく、10―7から再逆転を許してしまう。

後半、技川の速攻、長田のPT2本などで一気に追い越したビクターは、武藤のがんばりなどで15分過ぎまで優勝を保つが、次第に息切れが目立ち始める。その間、調子を取り戻した大和のパワフル左腕・裵川の強烈なミドルシュートが再三ネットに突き刺さり、終盤の攻め合いを制した大和の快勝となった。

	〔日ビ〕	得	〔大和〕	得
GK	小口	0	高浜	0
GK	高橋	0	増見	0
FP	武藤	7	丸田	9
FP	長田	6	鈴木	1
FP	枝川	3	赤瀬	3
FP	下條	2	上村	1
FP	平松	0	小池	2
FP	根本	1	藤本	2
FP	太田	0	渡辺	1
FP	工藤	1	裵川	6
FP	松井	0	木瀬	0
FP	中村	0	松田	0
PT		(3)		(1)
		20		25

（審・北山・大原）

◇1月31日（埼玉）

大崎電気26 〔12―11, 14―14〕 **25 立石電機山鹿**

〔戦評〕両チームともリーグ初戦でもあり、立ち上がりから白熱したゲーム展開となった。

前半、大崎は松尾のスピーディな攻撃、立石は野嶋の10得点をあげる活躍などにより同点で折り返した。後半に入っても、追いつ追われつのシーソーゲームをくり広げた。同点で迎えた24分、大崎・尹が退場となったがよく守り、立石は得点できなかった。その後残り2分、1分と大崎が連続得点をあげゲームは決まったかに思えたが、立石もよく粘り、1点差として終了間際、速攻で同点としたかに見えたがラインクロスでゲームセット。エキサイティングな好ゲームであった。

尚、この試合で大崎・石井は前半6分に得点し、自己の持つ連続試合得点記録を51試合と伸ばした。

	〔立石〕	得	〔大崎〕	得
GK	岡本	0	大西	0
GK	竹下	0	佐々木	0
FP	山口	0	森田	0
FP	山内	0	松尾	5
FP	江口	2	須永	0
FP	横田	2	石井	5
FP	野嶋	14	徳渕	3
FP	田中	0	野田	0
FP	武津	2	金	2
FP	中山	2	尹	6
FP	毛利	0	江口	3
FP	橋本	3	鈴木	2
PT		(1)		(0)
		25		26

（審・岡本・清水）

◇1月31日（神戸）

大和銀行23 〔13―9, 10―9〕 **18 ジャスコ**

〔戦評〕ジャスコは大和オフェンスをよく研究し、フリースローからの丸田・裵川のロングを封じる一方、全員がマイボールになるとこまねずみのようにボールを回すスピーディな全員ハンドで3連続得点の好ダッシュ。

大和も小池の3PTで中盤追いついたものの、お互いのミスからシーソーゲームとなり、サイドシュートからのPTが双方ともかなりあり、ディフェンスに荒さが見られた。

後半になると、ようやく丸田に当りの出だした大和が、ポスト・赤瀬、忍者・上村らをからませて着実に加点、主柞に人材を欠くジャスコのオフェンスを1・5でじっくり守り切り、余裕ある試合運びで裵川の絶不調をものともせず連勝した。

	〔ジャ〕	得	〔大和〕	得
GK	小深田	0	高浜	0
GK	吉田	0	増見	0
FP	服部	0	丸田	5
FP	佐々木	2	鈴木	3
FP	石田	1	赤瀬	2
FP	池田	1	上村	6
FP	渡辺	7	小池	4
FP	常石	0	藤井	1
FP	川井	6	渡辺	2
FP	東出	1	裵川	0
FP	寿系	0	木瀬	0
FP	稲田	0	松田	0
PT		(2)		(2)
		18		23

（審・大原・浜野）

◇1月31日（横浜）

日立栃木28 〔16―12, 12―16〕 **28 日本ビクター**

〔戦評〕立ち上がりから追いつ追われつの展開で、日立はキャプテン前田とエース山岸のロングシュートが光る。また、GK葛生がビクターの好シュートを再三再四のキーピングを見せ、なかなか得点を許さない。しかしビクターは、前半15分過ぎから根本の的確なシュートと長田のペナルティーで着々と得点を重ねて、前半は12―12の同点で折り返した。

後半は、ビクターがGK小口を中心にディフェンスを固め、日立の強シュートを阻み、サイドの枝川が小気味良くシュートを決める。残り10分からは壮絶な打ち合いとなり、息もつかせぬ好ゲームで満員の観衆を魅了した。

尚、この試合の合計得点56は、女子ではリーグ新記録である。

	〔日ビ〕	得	〔日立〕	得
GK	小口	0	梅津	0
GK	高橋	0	葛生	0
FP	武藤	8	前田	9
FP	長田	6	井沢	3
FP	枝川	4	菅原	0
FP	下條	4	山岸	6
FP	平松	0	中村	0
FP	根本	5	繁在家	0
FP	太田	0	新井	6
FP	工藤	0	岡田	4
FP	中村	1	神長	0
FP	山之内	0	吉鶴	0
PT		(1)		(3)
		28		28

（審・新木・内田）

◇2月14日（岩手）

大崎電気33 〔18―14, 15―18〕 **28 日立栃木**

〔戦評〕金玉花のリーグ新記録の16得点という大活躍で、大崎が日立に快勝した。

日立も前田、山岸がよく決めたが、後半、山岸に金玉花のマンツー気味のディフェンスをかけられ攻めあぐんでしまった。

〔日立〕	得		得	〔大崎〕
岡本	0	GK	0	大西
葛生	0	GK	0	佐々木
前田	9	FP	0	森田
井沢	3	FP	1	松尾
菅原	0	FP	0	須永
山岸	7	FP	2	石井
中村	4	FP	5	徳渕
神永	0	FP	0	野田
繁家（在）	0	FP	16	金
新井	1	FP	6	尹
岡田	4	FP	3	江口
神長	0	FP	0	鈴木
(1)	28	PT	33	(4)

（審・小友、谷藤）

◇2月20日（四日市）

立石電機山鹿 30〔11―9、19―8〕17 ジャスコ

〔戦評〕前半は全く一進一退の展開。立石はシュートミスが多く、地元の声援を受けたジャスコもよく粘って11―9の2点差で折り返した。

しかし、後半に入ってジャスコの攻撃に決め手がなく、PTを2本つづけて失敗して得点があがらず、逆に立石は、野嶋、田中、中山といった各人がまんべんなくシュートを決めて着々と得点を重ね、大差をつけてジャスコを突き放した。

〔日立〕	得		得	〔大和〕
岡本	0	GK	0	高浜
葛生	0	GK	0	増見
前田	7	FP	4	丸田
井沢	5	FP	2	鈴木
菅原	0	FP	3	赤瀬
山岸	2	FP	6	上村
中村	2	FP	2	小池
神永	0	FP	2	藤井
繁家（在）	0	FP	1	渡辺
新井	1	FP	2	袰川
岡田	2	FP	0	木瀬
神長	0	FP	0	松田
(1)	19	PT	22	(1)

（審・小坂、谷藤）

◇2月21日（青森）

大和銀行 22〔13―11、9―8〕19 日立栃木

〔戦評〕大和は、丸田を中心に早い攻撃展開で2分には3―0とリード、しかし、日立も大和のシュートミスをうまく利用し速攻で逆襲、6分には4―3と逆転。その後両者ともに激しい得点争いとなり、終盤速攻により2連続得点をあげた大和リードで前半を終了。

後半に入り、日立は大和の激しいディフェンスに合い攻め手を欠き、15分間にわずか1点しか取れず、一方の大和は好守からの逆速攻により着実に得点、17分過ぎには20―12と大きくリードを奪い試合を決定づけた。

尚、この試合で日立の前田は7点をあげ、女子初めの300ゴール（302ゴール）を達成した。

〔立石〕	得		得	〔日ビ〕
岡本	0	GK	0	小口
竹下	0	GK	0	高橋
山口	0	FP	5	武藤
山内	0	FP	5	長田
江口	0	FP	3	枝川
横田	4	FP	4	下條
野嶋	8	FP	0	平松
田中	1	FP	1	根本
武津	0	FP	0	太田
中山	0	FP	1	工藤
毛利	0	FP	0	永岡
橋本	3	FP	0	中村
(4)	16	PT	19	(1)

（審・日比、川合）

◇2月21日（岐阜）

日本ビクター 19〔10―6、9―10〕16 立石電機山鹿

〔戦評〕立ち上がり、武藤、長田のシュートでリードしたビクターは、ディフェンス力があり、立石も1点差まで追いつきはしたがパス、シュートミスが目立ち、ペースをつかめない。

後半、立石は前半シュートの決まらなかった野嶋のロングシュートやスタンディングシュートが決まり出し、立石のペースとなったが、ビクターも前半のリードを保って逃げ切った。

〔ジャ〕	得		得	〔立石〕
小深田	0	GK	0	岡本
吉田	0	GK	0	竹下
服部	4	FP	1	山口
佐々木	1	FP	2	山内
石田	4	FP	0	江口
池田	2	FP	3	横田
渡辺	1	FP	7	野嶋
常石	0	FP	4	田中
川井	3	FP	1	武津
東出	2	FP	7	中山
稲田	0	FP	1	毛利
今井	0	FP	4	橋本
(1)	17	PT	30	(2)

（審・川島、森）

◇2月24日（福井）

大崎電気 30〔12―9、18―7〕16 ジャスコ

〔戦評〕前半23分まで1点を争う一進一退のゲーム展開であった。大崎は速攻で加点し2点リード。その後、ジャスコのGK小深田の負傷から吉田に代わるが、よく守り前半終了。

後半、大崎・松尾のポストシュートから始まり、尹のロングシュートなどで4連続得点。その後、波に乗る大崎は速攻などで着実に加点し、試合の主導権を握った。

10分過ぎから尹がマンツーマンされ攻撃の足が止まったかに見えたが、尹に替って森田が入って再び着々と加点、後半は大崎の一方的な展開となってしまった。

〔ジャ〕	得		得	〔大崎〕
小深田	0	GK	0	大西
吉田	0	GK	0	佐々木
服部	0	FP	2	森田
佐々木	5	FP	3	松尾
石田	2	FP	1	須永
池田	3	FP	4	石井
渡辺	1	FP	3	徳渕
常石	0	FP	2	野田
川井	2	FP	4	金
東出	1	FP	9	尹
稲田	2	FP	0	江口
今井	0	FP	2	鈴木
(2)	16	PT	30	(4)

（審・阿部羅、古橋）

◇2月27日（東京、駒沢）

大崎電気 30〔15―13、15―14〕27 大和銀行

〔戦評〕3戦全勝同士の対決、この試合に勝てば最終戦を待たずして優勝が決まるという大一番だけに、スタートから両者激しい主導権争いを展開したが、尹、金という絶対的な切り札を持つ大崎が、大和の執ような追撃をふり切って2年ぶり3回目の優勝を遂げた。

大崎の左腕エース尹は、大和のマンツーマンディフェンスにあい

〔大和〕	得		得	〔大崎〕
高浜	0	GK	0	大西
増見	0	GK	0	佐々木
丸田	7	FP	0	森田
鈴木	2	FP	3	松尾
赤瀬	1	FP	0	須永
上村	4	FP	2	石井
小池	4	FP	4	徳渕
藤本	3	FP	0	野田
渡辺	1	FP	6	金
袰川	5	FP	14	尹
木瀬	0	FP	1	江口
松田	0	FP	0	鈴木
(3)	27	PT	30	(3)

（審・中山、大出）

ながら、この試合フィールドゴールだけで14得点を叩き出し、丸田、袰川のロング砲で追う大和の前に大きく立ちはだかった。

◇2月28日（神奈川・秋葉台）

日本ビクター 30 〔15−8 15−10〕 18 ジャスコ

〔戦評〕ビクターはロング、ポスト、サイドと攻撃に幅があり、守ってよく、ディフェンスが声をかけ合い、終始安定した試合運びを見せる。

ジャスコは、メンバーの故障などで少し歯車の合わないところがあり、全体にこわさが感じられない。よく走ったが、今一つ元気がなかった。

	〔ジャ〕	得	〔日ビ〕	得
GK	吉田	0	小口	0
GK	小林	0	高橋	0
FP	服部	2	武藤	3
FP	佐々木	1	長田	6
FP	石田	1	枝川	5
FP	池田	3	下條	3
FP	渡辺	4	平松	0
FP	常石	0	根本	4
FP	川井	6	太田	0
FP	武田	0	工藤	5
FP	東出	1	中村	4
FP	稲田	0	山之内	0
PT	(4)	18	(5)	30

（審・上久保、北井）

◇2月28日（山口）

立石電機山鹿 21 〔9−6 12−5〕 11 日立栃木

〔戦評〕前半1分、日立・井沢のポストシュートで先行く。しかし、立石もすぐ反撃し、10分で同点、14分過ぎには山口の速攻で逆転。その後立石は速攻と橋本のロングシュートなどで得点を重ね、日立はポスト、サイド攻撃で対抗する。

後半に入り、立石オフェンスのリズムが出てきて野嶋、橋本のロングシュート、田中のサイドシュートがよく決まり出し、終始立石ペースの展開で終了した。

	〔日立〕	得	〔立石〕	得
GK	岡本	0	岡本	0
GK	葛生	0	竹下	0
FP	前田	2	山口	1
FP	井沢	6	山内	1
FP	菅原	0	江口	2
FP	山岸	1	岩村	0
FP	中村	1	横田	0
FP	神永	0	野嶋	5
FP	繁在家	0	田中	4
FP	新井	1	武津	0
FP	岡田	1	中山	1
FP	神長	0	橋本	7
PT	(1)	11	(3)	21

（審・山根、赤地）

◇3月5日（岩井）

日本ビクター 32 〔17−12 15−19〕 31 大崎電気

〔戦評〕前半、攻守ともにはつらつとしたプレーを見せるビクターに対し大崎は攻撃がかみ合わず、パスミスなどが目立った。中盤あたりからビクターの速攻がよく出るようになり、前半は終始ビクターのペースで進み5点差で折り返す。

後半に入っても試合はビクターのペースで進んだが、終了5分前あたりから大崎の猛反撃が始まり、必死に追い上げるがあと一歩及ばず、ビクターが1点差で辛くも逃げ切った。

	〔大崎〕	得	〔日ビ〕	得
GK	大西	0	小口	0
GK	佐々木	0	高橋	0
FP	森田	1	武藤	4
FP	松尾	3	長田	10
FP	須永	0	技川	4
FP	石井	1	下條	6
FP	徳渕	0	平松	0
FP	野田	1	根本	5
FP	金	12	太田	0
FP	尹	10	工藤	3
FP	江口	3	松井	0
FP	鈴木	0	中村	0
PT	(2)	31	(5)	32

（審・岡本、浜田）

◇3月5日（福井）

立石電機山鹿 18 〔11−7 7−7〕 14 大和銀行

〔戦評〕前週大崎に敗れ初優勝のチャンスを失った大和は、丸田、袰川の左右の大型砲を前面にパワーで勝負をかけた。一方、前年のチャンピオン立石は、小粒ながらも豊富な運動量と組織プレーで対抗、京都ということもあって両チーム応援団が大声援。

試合は、前半立ち上がり10分間競り合ったものの、以後立石の野嶋、橋本の活躍で差を広げ、守ってはGK岡本の好守で大和の丸田を2点、袰川を1点に押えこみ快勝した。

	〔大和〕	得	〔立石〕	得
GK	高浜	0	岡本	0
GK	増見	0	竹下	0
FP	丸田	3	山口	0
FP	鈴木	2	山内	1
FP	赤瀬	0	江口	0
FP	上村	4	横田	3
FP	小池	2	野嶋	6
FP	藤本	1	田中	0
FP	渡辺	1	武津	0
FP	川	1	中山	4
FP	木瀬	0	毛利	0
FP	平井	0	橋本	4
PT	(1)	14	(0)	18

（審・岩本、岩永）

◇3月5日（栃木）

日立栃木 28 〔13−10 15−15〕 25 ジャスコ

〔戦評〕両チームともリーグ戦の最終戦でもあり、立ち上がりから白熱したゲーム展開となった。

前半、日立は前田のスピーディな攻撃でリードした。後半、ジャスコもペナルティスローまでもちこむ粘り強い攻撃で反撃したが、逆転するまでには至らなかった。

	〔ジャ〕	得	〔日立〕	得
GK	吉田	0	岡本	0
GK	小林	0	葛生	0
FP	服部	3	前田	11
FP	佐々木	0	井沢	3
FP	石田	3	菅原	2
FP	池田	2	山岸	3
FP	渡辺	9	尾苗	0
FP	常石	0	中村	3
FP	川井	3	神永	0
FP	武田	3	繁在家	0
FP	東出	0	新井	3
FP	稲田	2	岡田	3
PT	(6)	25	(3)	28

（審・横瀬、矢澤）

②部 〈男子〉三陽商会 〈女子〉シャトレーゼ が制す

〈男子〉

チーム	得点	セット	得点	チーム
三景	26	11 15 / 13 8	21	中村荷役
トヨタ車体	15	8 7 / 8 6	14	豊田織機
日鉄建材	24	10 14 / 10 8	18	大阪ガス
トヨタ車体	22	13 9 / 8 10	18	大阪ガス
三陽商会	32	17 15 / 7 10	17	豊田織機
三景	35	19 16 / 11 11	22	日鉄建材
本田熊本	27	14 13 / 15 7	22	中村荷役
中村荷役	29	17 12 / 9 9	18	日鉄建材
本田熊本	25	13 12 / 12 8	20	三景
三陽商会	30	15 15 / 11 7	18	本田熊本
豊田織機	25	11 14 / 12 7	19	大阪ガス
本田熊本	27	16 11 / 11 10	21	豊田織機
三陽商会	33	16 17 / 8 9	17	大阪ガス
三景商会	33	17 16 / 9 7	16	大阪ガス
三陽商会	38	17 21 / 8 11	19	日鉄建材
トヨタ車体	25	12 13 / 9 11	20	中村荷役
三陽商会	29	9 20 / 11 6	17	中村荷役
三景	28	11 17 / 12 8	20	トヨタ車体
三陽商会	31	17 14 / 8 10	18	トヨタ車体
三景	28	14 14 / 8 12	20	豊田織機
本田熊本	32	19 13 / 11 9	20	日鉄建材
大阪ガス	19	10 9 / 8 10	18	中村荷役
本田熊本	27	13 14 / 14 8	22	トヨタ車体
豊田織機	31	14 17 / 11 10	21	日鉄建材
豊田織機	21	8 13 / 12 7	19	中村荷役
本田熊本	30	16 14 / 9 11	20	大阪ガス
日鉄建材	25	15 10 / 10 14	24	トヨタ車体
三陽商会	33	14 19 / 16 12	28	三景

〔順位〕
①三陽商会（7勝）
②本田技研熊本（6勝1敗）
③三　景（5勝2敗）
④トヨタ車体（3勝4敗）
⑤豊田自動車織機（3勝5敗）
⑥日鉄建材工業（2勝5敗）
⑦大阪ガス（1勝6敗）
⑧中村荷役運輸（1勝6敗）
※勝点が同数間の順位は、当該チーム間の対戦結果による。

〈女子〉

チーム	得点	セット	得点	チーム
ブラザー工業	49	28 21 / 1 6	7	ムネカタ
ソニー国分	21	14 7 / 11 5	16	北国銀行
東京重機	35	16 19 / 10 10	20	ムネカタ
北国銀行	22	12 10 / 10 9	19	東京重機
ソニー国分	30	15 15 / 7 3	10	ムネカタ
東京重機	28	15 13 / 14 9	23	ソニー国分
北国銀行	46	20 26 / 12 4	16	ムネカタ
シャトレーゼ	33	14 19 / 9 9	18	北国銀行
ブラザー工業	25	12 13 / 9 8	17	ソニー国分
シャトレーゼ	21	12 9 / 8 7	15	ブラザー工業
シャトレーゼ	28	15 13 / 13 5	28	東京重機
ブラザー工業	25	16 9 / 12 12	24	北国銀行
シャトレーゼ	29	16 13 / 11 7	18	ムネカタ
シャトレーゼ	33	18 15 / 11 5	16	ソニー国分
ブラザー工業	31	15 16 / 6 9	15	東京重機

〔順位〕
①シャトレーゼ（5勝）
②ブラザー工業（4勝1敗）
③東京重機工業（2勝3敗）
④ソニー国分（2勝3敗）
⑤北国銀行（2勝3敗）
⑥ムネカタ（5敗）
※2～4位は3チーム間の得失点差による。

5人以上のグループでこの保険に加入できます。

保険料（年額1人あたり）

- ■スポーツ少年団、子ども会など中学生以下の子どものグループ　**350円**
- ■文化活動、奉仕活動のグループおよび老人のグループ（ゲートボールなど）　**600円**
- ■ママさんバレーなどの地域スポーツグループ、高校の運動部および大学・会社などのスポーツ同好会など　**1,050円**

注：ほかに学生連盟、実業団連盟に所属する団体の加入も扱っています。

補償の内容

傷害保険	死亡・後遺障害 入院（1日につき） 通院（1日につき）	最高 1,200万円 3,800円 1,200円
賠償責任保険	支払限度額	対人 5,000万円 対物 100万円

対象となる事故

■グループ活動中の事故　■往復途上の事故

保険期間

昭和63年4月1日より翌年3月31日まで（申込受付は3月から）

加入申し込み、資料の請求、お問合わせ

スポーツ安全協会各都道府県支部（主として教育委員会保健体育課および体育協会）、もよりの東京海上火災保険㈱の営業店にご照会ください。

(財)スポーツ安全協会

東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育会館　TEL(03)481-2431（代表）

'87男子ジャパンカップにおける日本、ユーゴ、西ドイツの体格、形態、体力の比較について

〈日本ハンドボール協会トレーニング・ドクター群〉
阿部徳之助[1]，竹内正雄[2]，栗岩淳一[3]，森川寿人[4]，宮澤恒夫[5]，西山逸成[6]
〈協力者〉北川勇喜[7]，藤原侑[8]，松井幸嗣[9]，上嶋美佐子[10]，
日本体育大学ハンドボール部員
(1)自治医科大学　(2)星薬科大学　(3)都立日野高校　(4)九州女子大学　(5)高井戸中学校　(6)防衛大学　7)8)9)10)日本体育大学

1．はじめに

我が国のハンドボールの競技力を向上させるためには，世界のトップレベルにある選手たちの，形態や体力を把握することをはじめとして，試合中の選手相互の動きをVTRにおさめ，動作学的解析やゲーム分析が今後の強化に有用であることは論をまたない。

この度は，日本ハンドボール協会創立50周年記念行事として，ロサンゼルス・オリンピック大会で金メダルを獲得したユーゴ，銀メダルの西ドイツチームを日本に招いて，世界のトップレベルのハンドボールゲームが行なわれた。

我々トレーニング・ドクターグループは，日本ハンドボール選手たちの今後の強化策の指針を得ることを目的とし，これらの選手たちの体力測定を大会期間中に実施した。

2．方　法

①　対象　日本，ユーゴ，西ドイツ
②日時　1987．6月1日（13：00—18：00）
③場所　東京都代々木第1体育館
④　測定項目
　(イ)　体格　年齢，身長，体重
　(ロ)　形態　胸囲，座高，上腕囲（伸展），上腕囲（屈曲），前腕囲，大腿囲，下腿囲
　(ハ)　運動能力　肺活量，背筋力，握力（右・左）

3．結　果

(1)　体　格

図—1　1987年ジャパンカップ参加の日本，ユーゴおよび西ドイツ選手の形態，体力の比較を示した。

これをみると，年齢では，日本26.7±1.97歳，ユーゴ26.9±2.7歳で日本とは，ほぼ同じ年齢であり，西ドイツ22.9±2.38歳でもっとも若いチームであった。

次に身長をみると，日本182.8±4.05 cm，西ドイツ190±8.99 cmで日本が西ドイツよりも8 cm低い（P＜0.01）。また、ユーゴ187.4±490 cmで日本が5 cm低い（P＜0.01）。

体重では，日本78.1±5.35 kg，ユーゴ90.6±6.04 kg，西ドイツ88.7±8.13 kgで，日本がユーゴ，西ドイツよりも11～13 kg軽量であった（P＜0.01）。

(2)　形　態

座高では各チームともほとんど同じ値で差がみられなかった。次に胸囲では，日本が96.9±4.67 cm，ユーゴ102.9±3.9 cm，西ドイツ103.3±5.57 cmで日本が約6.4 cm他のチームよりも小さかった（P＜0.01）。

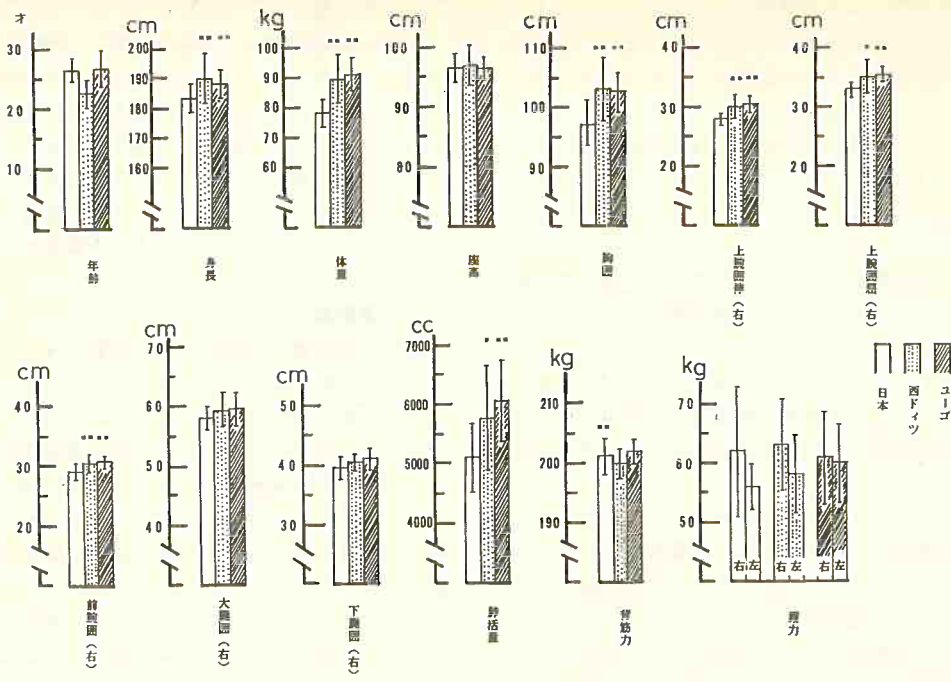
次に上腕囲伸展をみると，日本28.0±1.00 cmで，ユーゴ，西ドイツが2～3 cm大であった目P＜0.01)。

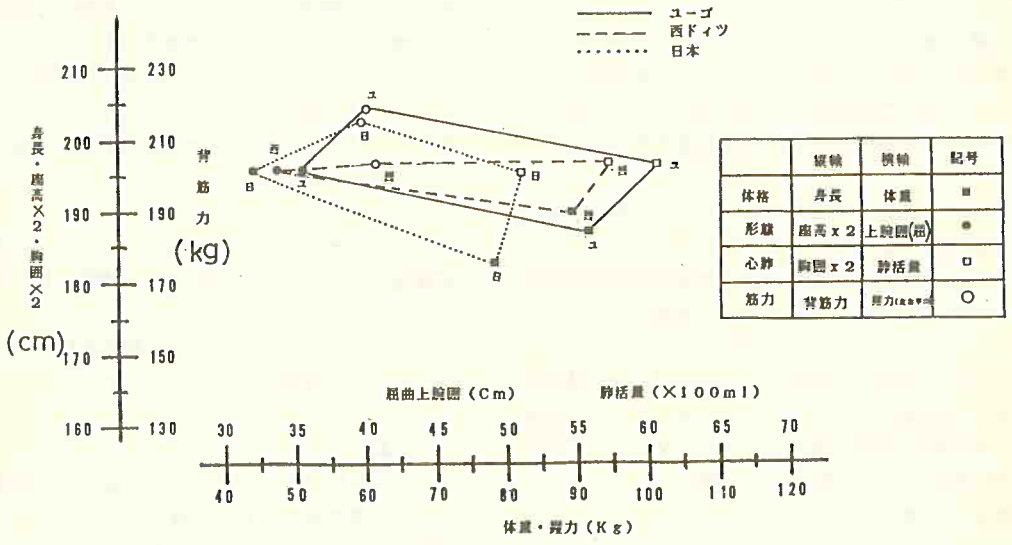
上腕囲屈曲では，日本33.1±1.15 cmで，ユーゴ，西ドイツがここでも約2 cm大であった（P＜0.01）。

さらに前腕囲では，日本28.7±1.24 cmで，ユーゴ，西ドイツが約2 cm大であった（P＜0.01）。

さらに前腕囲では，日本28.7±1.24 cmで，ユーゴ，西ドイツが約2 cm大であった（P＜0.01）。下肢の大腿囲，下腿囲では，日本は他のチームとほとんど同じ値で差はない。

(3)　運動能力

肺活量では，日本5138.2±635.2 ccでもっとも低い。西ドイツ575.3±948.6 ccユーゴ6040±727.4 ccでもっとも高い値を示した。日本と比べると西ドイツ，ユーゴは有意に高い傾向がみられた（P＜0.01～P＜0.05）。

図—1　ジャパンカップの日本，ユーゴ，西独選手の形態，体力の比較

	縦軸	横軸	記号
体格	身長	体重	■
形態	座高 x 2	上腕囲(屈)	●
心肺	胸囲 x 2	肺活量	□
筋力	背筋力	握力	○

図—2　1987　ジャパンカップ　日本，ユーゴ，西ドイツハンドボールチームの体力的概観

また，肺活量は身体形態値によって左右されるといわれていることから，これを身長比でみると，日本とユーゴとの間の比較では統計的に有意にユーゴが高い値がみられた（P<0.01)。

背筋力では，日本213.3±30.13 kg で西ドイツよりも高い値であった（P<0.01)。しかし，日本とユーゴとはほぼ同じ水準である。握力の左右の筋力では，各国ともほとんど同じ水準を示した。

図―2。1987年ジャパンカップで日本，ユーゴ，西ドイツ，ハンドボールチームの体力概観を示したものである。

日本　17名，ユーゴ　15名，西ドイツ　15の身長，体重，胸囲，座高，上腕囲，肺活量，背筋力，握力などの測定の平均値から白井体勢図[1]を作成し相互の比較をした。

① これによると，ユーゴのハンドボール選手としての体力的特性は，体格，形態，心肺機能の位置が右寄りの高い位置にあり，日本，西ドイツに比較して全般的に優れている傾向を示している。

② 日本の特徴は，ユーゴ，西ドイツに比較して，体格，心肺機能などでやや劣る四辺形を示した。

4．考　察

(1) 体　格

身長では，図―1に示したごとく，日本はユーゴや西ドイツと比べてみると，平均5～8 cm 低く，西ドイツ選手の中には身長が2 m に達する選手が3名入っている。

世界のトップレベルにあるハンドボール選手たちの身長は年々高くなる傾向にあるなかで，日本チームの大型化の対策が望まれる。一般に体重は身長の充実度をあらわしているが，日本チームの体重は，ユーゴ，西ドイツと比べると11～13 kg 軽い。

ハンドボール競技の特性からみた場合，身体接触から衝突へと発展するときに，相手をはじきとばす要素としても必要である。筋力トレーニングによって筋肉量を増す努力，即ち，筋力パワー強化へのトレーニング姿勢も日本選手が必要である。

(2) 形　態

上肢の周径囲では，上腕囲（伸)，上腕囲（屈)，前腕囲での項目でユーゴ，西ドイツよりも有意に低い値を示している。これは上肢の筋力不足によるものと思われることから，上肢の筋力強化を行なうべきである。

下肢の周径囲に，各チームの間には差がみられなかったが，日本チームには，上・下肢の筋力トレーニングをこれまで以上に重視する必要を痛感させられた。

(3) 運動能力

呼吸・循環器系の機能での肺活量をみると，肺活量は，体表面積とに関係がみられることから，これを身長比で評価した結果をみると，日本とユーゴとの間に統計的な有意な差がみられた。測定実施のときに，ユーゴ選手の中に肺活量メーターは上限7000 cc を，バシッチ（27歳)，コビッチ（28歳)，ビッチ（21歳）が針をはじき飛ばして計測不能となり，彼等の呼吸器系能力の大きさをみせつけられた。

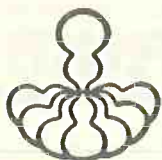
次に背筋力，握力の筋力をみると，各チームの間ではほとんど差がないが，日本が西ドイツよりも背筋力値が高かった。

以上，ジャパンカップの競技成績と形態，体格，心肺機能との関係をみても，形態や体格，心肺機能の能力が優れているチームは競技成績もよく，今後，全日本の選手たちの体格，体力，呼吸・循環器系の機能などとユーゴや西ドイツチームの世界のトップレベルにある値に近づけるための強化策が早急に計画立案を作成し実践しなければならない。

この度の測定にあたり，ハンドボール協会専務理事安藤純光氏はじめ関係役員諸氏の御協力に心から感謝する。

なおこの測定は，技術担当の関東在住のトレーニング・ドクター群委員によって行なわれた。

〔文献〕

(1) 白井伊三郎，阿部野竜正：日本人の体勢の特異性とその運動適性に就て：体力科学。1(1). 36～39, 1950

'87男子ジャパンカップにおける日本、ユーゴ、西ドイツのゲーム分析について

〔日本ハンドボール協会トレーニング・ドクター群〕
阿部徳之助[1]，竹内正雄[2]，栗岩淳一[3]
森川寿人[4]，宮澤恒夫[5]，西山逸成[6]

〔協力者〕北川勇喜[7]，藤原侑[8]，桜井幸嗣[9]，上嶋美佐子[10]
日本体育大学ハンドボール部員

1）自治医科大学　2）星薬科大学　3）都立日野高校　4）九州女子大学　5）高井戸中学校　6）防衛大学
7）～10）日本体育大学

1．はじめに

昭和62年（1987）は，ハンドボール競技においてオリンピック大会に出場できるかどうかが決定される重大な年であった。全日本チームは8月のオリンピック予選を目指して，計画的なトレーニングを行なった。日本ハンドボール協会創立50周年記念行事とあわせて，競技力の向上をさせることを目的とし，世界のトップレベルにある，ユーゴ，西ドイツと日本が対戦し，その試合をVTRにおさめ，その中からゲーム分析を行ない今後の強化に役立てようとしたものである。

2．方　法

① 対象　日本，ユーゴ，西ドイツ
② 日時　1987年5月31日から6月2日
③ 場所　東京・代々木第1体育館
④ 分析項目

パス回数，攻撃に対する得点率（得点／攻撃回数）シュート率（得点／シュート数），ドリブル回数，移動距離（200分の1のハンドボール競技場縮図を用意し，1人の検者が1人の被検者を追跡し，1試合における軌跡を記入した。それをもとに実際の移動距離を算出した。）

3．結　果

図—1，図—2，表—1に，日本対ユーゴの移動距離，パス回数，攻撃における得点率，シュート率を示した。これをみると，1試合の移動した距離では，日本3249 m，ユーゴ3307 mでほぼ同じ値である。その内訳をみると，日本が全力疾走の前半と後半の合計の走った距離は，1240 mに対して，ユーゴ731 mで，日本が約500 m多く走っている。中間走では，ユーゴが日本よりも約100 m多い。

また，個人別にもっとも長い距離を走った選手は，ユーゴのヤスシン・ムコニアン（29歳，身長，175.2 cm，体重82 kg）4938 m，日本の西山清（29歳，身長181.2 cm，体重76 kg）3463 mであった。

次に，1試合に使用したパスの回数をみるとユーゴ，日本ともほぼ同じ回数であり，これを1回の攻撃に使用した回数の平均は，日本11.2回，ユーゴ10.6回であった。チームがボールを保持してから攻撃し，シュートまでの得点率をみると，前半では，日本23％，ユーゴ52％，後半の日本35％，ユーゴ61％で，前・後半ともにユーゴが高い得点率であった。

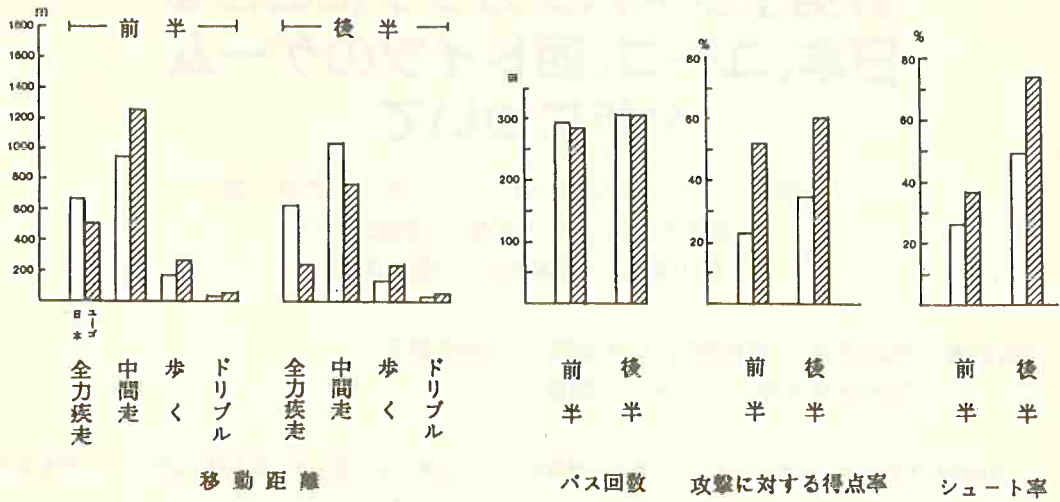
シュート率では，日本前半27％，ユーゴ47％，後半日本の50％，ユーゴ74％であった。

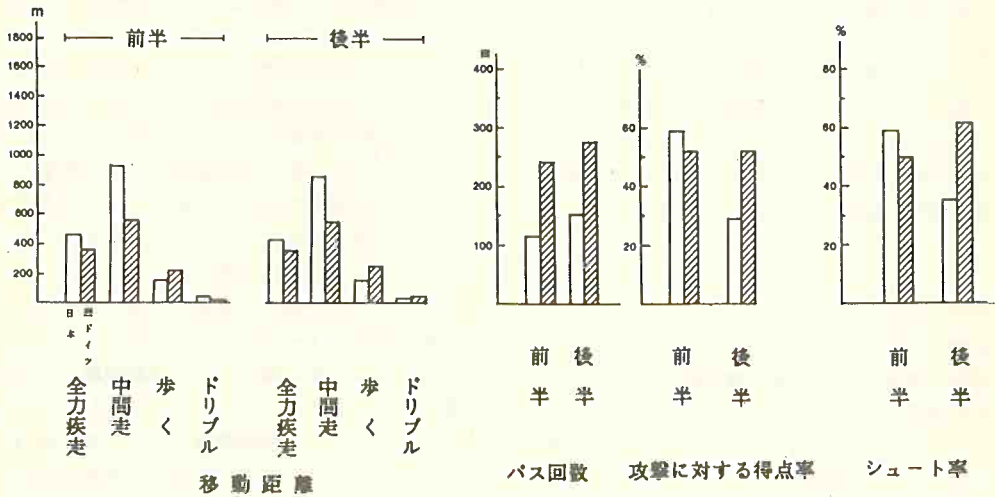
図—2は日本対西ドイツの移動距離，パス回数，攻撃に対する得点率，シュート率を示した。

これをみると，移動距離では，日本3106 m，西ドイツ2330 mである。日本が全力疾走約200 m，中間走678 mでユーゴよりも多い。両チームで，もっとも長い距離を走った選手をみると，西ドイツのクリステリア・フィック（26歳，身長193 cm，体重90 kg）3093 m，日本の奥田新治（28歳，身長184 cm，体重74 kg）2970 mであった。

次に，1試合のパスを使用した回数では，日本265回，西ドイツ517回で，日本が西ドイツよりも50％少なかった。

また，これを攻撃における得点率からみると，前半の日本58％，西ドイツ52％で，ほぼ同じ得点率であり，後半では，日本29％，西ドイツ52％である。日本は前・後半の合計すると43％という低い値である。

（男子）
日本 15 (7−17 / 8−14) 31 ユーゴ

図—1　日本対ユーゴチームの移動距離，パス回数，攻撃に対する得点率，シュート率を示した

（男子）
日本 17 (10−11 / 7−12) 24 西ドイツ

図—2　日本対西ドイツチームの移動距離，パス回数，攻撃に対する得点率，シュート率を示した

表—1　1987ジャパンカップの日本，ユーゴ，西ドイツ体格，移動距離

チーム		年齢	身長	体重	前半				後半				合計(m)
		才	cm	kg	全力疾走(m)	中間走(m)	歩く(m)	ドリブル(m)	全力疾走(m)	中間走(m)	歩く(m)	ドリブル(m)	
日本	X	26.7	182.8	78.1	634.6	924.3	173.3	16.5	605.3	1030.8	154.6	9.8	3249.2
	S.D	1.97	4.05	5.35									
ユーゴ	X	26.6	187.4	90.6	503.7	1241.7	286.8	20.5	228.0	776.0	230.5	20.1	3307.3
	S.D	2.74	4.89	6.04									
日本	X	26.7	182.8	78.1	467.2	936.0	165.2	48.8	439.7	891.0	154.8	2.8	3105.5
	S.D	1.97	4.05	5.35									
西ドイツ	X	22.9	190.0	88.7	337.0	577.0	209.0	15.0	360.0	572.7	252.2	7.5	2330.4
	S.D	2.38	8.99	8.13									

シュート率からみると，前半の日本59%，西ドイツ50%，後半，日本35%，西ドイツ62%であった。前・後半の合計で47%という低いシュート率であった。

4．考　察

（日本対ユーゴ）

60分間の試合時間の中でハンドボール競技場を走った距離は，日本3249 m，ユーゴ3307 m で，両チームともほぼ同じ値を示している。我が国においては，藤原[1]たちは，1967年全日本室内総合選手権大会（決勝リーグ）で，8ゲームの平均4204 m（全力疾走663 m，中間走2838 m，走行673 m，ドリブル31 m）の移動距離の報告もみられる。

さて全力疾走では，日本が500 m 多く走っていたが，走行距離だけみると，得点の結果では，日本選手たちの走行が直接，得点や防御のために有効なものかの判断はできないが効率が悪いことは考察できよう。走行についてその時期，速度，有効性について再検討する必要があろう。

1試合中に使用されるパス回数をみると，両チームともほぼ同じであるが，ハンドボール競技はパス・キャッチはもっとも重要な基本技術であることから，ボールを扱いながら相手とかわす技術や他への技術を継続展開させてやることや，そのパスされたボールが有効でしかも高い確率でなければ，そのパスは何の意味もなく，むしろ相手にボールを奪われ得点される危険性が生じてくる。そんな点に両チームのパス技術の差があるこかも知れない。

次に攻撃に対する得点率をみると，日本チームはボールを保持し，シュートを含めた失敗がなんと70%にも達している。一方のユーゴチームは40%にすぎない。その主な原因は，攻撃や防御面での身体接触による体力消耗による走行スピードや走行距離の変化などによるパスや動きの見誤りの過誤によるミスなどや長身者に対しての対応の困難さからミスが発生していると推測される。

（日本対西ドイツ）

60分間の移動した距離では，日本は西ドイツよりも全力疾走（2000 m）や中間走（680 m）での量的側面，即ち走る量が多いといえる。しかし，その走りが試合の中で適切なものであったか，有効であったかの評価，判定はここでは困難ではあるが，試合の結果からみて有効な走行であったとはいいがたい。前述したようにどのような走行が有効であるかの判定を再検討する必要がある。

次に，攻撃に対する得点率をみると，日本が前半60%という高い得点率であったにもかかわらず，後半僅か29%と低い得点率を示した。日本チームは前半，列強チームと余り差異のないゲーム展開をしているが，後半かなり競技力差を痛感せざるを得ないゲーム展開を示している。この原因を追求し改善策などを求めなければならない。

〔文献〕

1）幕原侑他：ハンドボールゲーム分析について：体育学研究．14(5)．p.267，1970

各地の記録から…

東北

全国高校選抜東北予選

（1月27日～29日／野辺地町）

〈男子〉

▼予選リーグ

○Aブロック

聖光学院 24－17 青森商
聖光学院 33－16 日大山形
青森商 31－21 日大山形

○Bブロック

盛岡第一 23－20 湯沢
盛岡第一 25－21 古川商
湯沢 26－20 古川商

▼決勝リーグ

聖光学院 18（10－9、8－9）18 湯沢
青森商 21（11－9、10－3）12 湯沢
青森商 18（10－4、8－12）16 盛岡第一
聖光学院 15（10－5、5－6）11 盛岡第一

〔順位〕①聖光学院②青森商③盛岡第一④湯沢

〈女子〉

▼予選リーグ

○Aブロック

郡山女 15－12 青森西
郡山女 14－11 大曲農
大曲農 19－10 青森西

○Bブロック

聖和学園 28－8 日大山形
聖和学園 18－12 盛岡第二
日大山形 18－8 盛岡第二

▼決勝リーグ

郡山女 11（8－3、3－5）8 日大山形
大曲農 19（11－4、8－7）11 日大山形
聖和学園 24（9－6、15－8）14 大曲農
郡山女 15（10－5、5－6）11 聖和学園

〔順位〕①郡山女②聖和学園③大曲農④日大山形

第24回東北総合選手権

（1月30日～31日／野辺地町）

〈男子〉

▼1回戦

仙台育英高 31－13 山形工高
湯沢ク 30－23 聖光ク
学石ク 24－21 湯沢高
東北学院OB 29－22 真室川ク

▼2回戦

白亜ク 30－15 仙台育英高
湯沢ク 33－31 青森ク
花巻ク 30－23 学石ク
東北学院OB 30－29 七戸ユニオン

▼準決勝

湯沢ク 19－17 白亜ク
花巻ク 29－19 東北学院OB

▼決勝

花巻ク 31（18－12、6－12、3－4、4－2）30 湯沢ク

〈女子〉

▼1回戦

野辺地ク 17－11 日大山形高
岩手桐花ク 20－13 涌谷高
聖和学園 28－15 あすなろク
大農OG 11－8 盛岡二高

▼2回戦

ムネカタ 25－13 野辺地ク
大曲農高 30－12 岩手桐花ク
聖和学園 16－15 米沢女高OG
全緑が丘 28－14 大農OG

▼準決勝

ムネカタ 28－8 大曲農高
聖和学園 21－14 全緑が丘

▼決勝

ムネカタ 18（9－9、9－8）17 聖和学園

関東

第5回千葉県中学校新人戦

（日程、場所不明）

〈男子〉

▼1回戦

流山南 20－5 誉田
越智 25－13 葛飾
若松 12－7 柏南
木間ヶ瀬 17－2 磯辺二

▼2回戦

福栄 20－8 流山南
見明川 12－10 花園
富岡 21－6 柏三
東邦 21－5 越智
妙典 13－4 若松
野田一 29－12 市川八
市川 19－9 河原塚
逆井 16－10 木間ヶ瀬

▼準々決勝

福栄 28－6 見明川
富岡 16－15 東邦
妙典 8－7 野田一
逆井 16－10 市川

▼準々決勝

福栄 29－9 富岡
逆井 15－9 妙典

▼決勝

福栄 17（9－4、8－2）6 逆井

〈女子〉

▼1回戦

上志津 8－6 磯辺二

▼2回戦

野田二 22－7 上志津
二宮 11－5 聖徳短大付
佐原二 13－4 東国分
昭和学院 18－5 葛飾
花園 11－4 逆井
大栄 10－9 妙典
市川二 19－2 こてはし台
福栄 29－0 湖北台

▼準々決勝

野田一 19－6 二宮
昭和学院 9－8 佐原二

花園 10－8 大栄
福栄 21－9 市川二
▼準決勝
野田一 9－7 昭和学院
花園 5－4 福栄
▼決勝
野田一 17（8－7、9－4）11 花園

東海

東海室内三重県予選

（1月10、24日／本田技研健保体育館ほか）

〈成年男子〉

▼1回戦
全三重教員 36－24 鳥羽商船
▼2回戦
三重教員 33－8 鈴鹿高専
本田技研鈴鹿 48－9 四日市中央ク
本田技研爽風会 44－17 全三重教員
本田ク 44－18 鵜ノ森ク
▼準決勝
本田技研爽風会 30－18 本田ク
本田技研鈴鹿 39－9 三重教員
▼決勝
本田技研鈴鹿 25（14－8、11－9）17 本田技研爽風会

第14回三重県中学生新人大会

（1月24、31日／鈴鹿市体育館）

〈男子〉

▼1回戦
明和 16－6 西朝明
▼2回戦
菰野 13－11 東員第二
西笹川 12－11 亀山
南 22－14 白子
笹川 19－11 明和
▼準決勝
笹川 13－7 菰野
西笹川 25－10 南
▼決勝
西笹川 12（6－3、6－7）10 笹川

〈女子〉

▼1回戦
白子 12－2 名張北
▼2回戦
笹川 12－8 阿山
西朝明 21－10 東員第二
亀山 19－4 羽津
南 30－3 拓植
菰野 42－1 大安
西笹川 22－3 白子
朝明 26－15 三雲
▼3回戦
亀山 12－7 笹川
西朝川 10－9 明和
菰野 31－5 南
西笹川 16－1 朝明
▼準決勝
西笹川 8－2 亀山
菰野 12－8 西朝明
▼決勝
西笹川 12（6－5、6－5）10 菰野

北信越

第27回富山県高校室内選手権

（2月13、14、21日／富山市体育館）

〈男子〉

▼1回戦
八尾 14－14 富山（2PTC1）
富山工 24－11 伏木
富山商 10－9 雄山
富山東 22－17 富山高専
呉羽 9－6 大沢野工
▼2回戦
高岡商 18－13 八尾
高岡 16－11 富山中
小杉 23－14 富山工
水橋 17－7 富山商
高岡向陵 34－16 富山東
新湊 11－10 高明
高岡南 18－8 富山南
大門 21－11 呉羽
▼3回戦
高岡商 20－19 高岡
小杉 24－17 水橋
高岡向陵 キケン 新湊
大門 23－14 高岡南
▼準決勝
小杉 19－17 高岡商
高岡向陵 27－11 大門
▼3位決定戦
大門 29－25 高岡商
▼決勝
高岡向陵 30（14－10、16－9）19 小杉

〈女子〉

▼1回戦
雄山 12－2 新湊
高岡女子 5－5 高岡（2PTCA0）
富山北 13－6 氷見
小杉 18－16 高岡向陵
▼2回戦
富山女 16－3 雄山
富岡第一 10－9 高岡女
富山女短 28－8 富山北
有磯 24－4 小杉
▼準決勝
富山女 20－8 高岡第一
有磯 24－4 富山女短
▼3位決定戦
富山女短 24－5 高岡第一
▼決勝
有磯 11（6－5、5－5）10 富山女

四国

香川県中学校1年生大会

（1月24日／香東中学校）

〈男子〉

▼1回戦
綾南 17－8 桜町
香東 8－6 古高松
▼2回戦
綾南 11－8 光洋
木太 17－1 紫雲
香川一 15－4 山田
香東 7－6 勝賀
▼準決勝

綾南 9－8 木太
香川一 14－7 香東

▼決勝
香川一 10（6－4、4－2）6 綾南

〈女子〉
▼1回戦
古高松 4－3 木太
山田 8－4 塩江

▼2回戦
古高松 17－4 綾南
香川一 9－2 香東
光洋 5－2 紫雲
山田 6－1 桜町

▼準決勝
香川一 6－2 古高松
山田 12－7 光洋

▼決勝
香川一 9（6－3、3－3）6 山田

九州

第26回鹿児島県室内総合選手権

（12月25日～27日／県体育館ほか）

〈男子一部〉
▼予選リーグA組
鹿児島大 19－18 友球ク
ソニー国分 20－17 友球ク
ソニー国分 29－23 鹿児島大

▼同B組
鹿児島ク 41－26 海自鹿屋
鹿児島工ク 35－23 海自鹿屋
鹿児島工ク 20－18 鹿児島ク

▼決勝
鹿児島工ク 25（13－10、12－11）21 ソニー国分

〈女子〉
▼1回戦
国分実A 23－6 川内商工
重富中 13－8 ミヤコク
鹿児島大 15－7 鹿児島純心2年
牧園 34－2 鹿児島純心1年
国分実B 23－8 東谷山中OG
鹿児島南 16－5 鹿児島中央

▼2回戦
ソニー国分 23－2 国分実A
鹿児島大 32－8 重富中
牧園 26－15 国分実B
鹿児島純心3年 15－9 鹿児島南

▼準決勝
ソニー国分 31－11 鹿児島大
牧園 28－14 鹿児島純心3年

▼決勝
ソニー国分 43（20－4、23－9）13 牧園

〈男子二部〉
▼1回戦
加治木工A 21－15 鹿児島南OB
鹿児島商B 11－8 鹿大シルバースターズ
甲陵A 15－4 鹿児島中央B
鹿児島A 13－10 指宿ク
薩南工OB 26－20 頴娃クB
鹿児島中央 25－12 加治木ク
KNCT 棄権 国分ク

▼2回戦
笠沙ク 30－19 加治木工A
甲陵A 13－10 鹿児島商B
出水ク 没収試合 鹿児島高専
鹿児島工クB 棄権 財部ク
附属中OB 25－19 甲陵B
薩南工OB 18－11 鹿児島商工A
鹿児島中央A 16－7 加治木工B
鹿児島工 25－16 KNCT

▼3回戦
笠沙ク 32－19 甲陵A
鹿児島工クB 30－15 出水ク
薩南工OB 18－11 附属中OB
鹿児島工 21－16 鹿児島中央A

▼準決勝
笠沙ク 30－24 鹿児島工クB
薩南工OB 21－17 鹿児島工

▼決勝
笠沙ク 29（17－15、12－12）27 薩南工OB

全国高校選抜鹿児島県予選

（1月16～18日／隼人町営体育館）

〈男子〉
▼一回戦
加治木工 11－7 甲南

▼2回戦
大島 30－9 加治木工
国分 13－12 頴娃
隼人工 22－18 笠沙
鹿児島商 29－6 川内商工
出水 22－10 加治木
甲陵 22－15 加世田
鹿児島工 16－15 鹿児島中央
財部 22－14 出水工

▼3回戦
大島 20－9 国分
隼人工 28－13 鹿児島商
出水 20－18 甲陵
鹿児島工 35－15 財部

▼決勝リーグ
大島 38－13 隼人工
鹿児島工 24－22 出水
大島 42－9 出水
鹿児島工 26－13 隼人工
大島 32－16 鹿児島工
出水 20－20 隼人工
〔順位〕①大島②鹿児島工③出水④隼人工

〈女子〉
▼1回戦
牧園 19－6 鹿児島中央
鹿児島純心 12－1 甲南
国分実 11－8 鹿児島南
大島 25－1 財部

▼敗者復活戦
鹿児島純心 13－4 甲南
鹿児島南 37－3 財部

▼2回戦
牧園 8－7 鹿児島純心
国分実 14－7 大島

▼3回戦
鹿児島南 10－9 鹿児島純心
大島 23－12 鹿児島中央

▼決勝リーグ
牧園 12－3 鹿児島南
国分実 10－7 大島
牧園 9－8 大島
国分実 22－14 鹿児島南
牧園 13－10 国分実
大島 15－12 鹿児島南
〔順位〕①牧園②国分実③大島④鹿児島南

昭和63年度事業計画日程表

月	全　国　大　会	国際大会、海外遠征	普　及　・　審　判
63/4		男子Ｎヨーロッパ遠征　3/24～4/10（西ドイツ、アイスランド） 国際スポーツフェアー'88　4/30・5/2（東京）	
5	第29回全日本実業団選手権(女子)　5/13～15（半田市）	アイスランド招待国際大会　5/4（名古屋）・5/5（大阪） 男子Ｎユーゴカップ　5/15～6/1（ユーゴ）	Ａ・Ｂ級審判審査会　5/中～6/中（東京他）
6	ＪＨＬカップ　6/10～6/12（各地） 第29回全日本実業団選手権(男子)　6/23～26（大阪）		
7			
8	第39回全日本高校選手権　8/1～8/7（兵庫） 第31回全日本教職員選手権　8/8～8/13（札幌） 第15回全国高専選手権　8/6～8/7（熊本） 第8回全国クラブ選手権　8/13～8/15（松山） 第17回全国中学校大会　8/19～8/22（福島）	男女ユースアジア選手権大会　8/5～8/15（シリア） 日韓ジュニア交流(高校)　8/中～8/下（韓国慶州）	第1回全国小学生大会　8/17～8/20（京都） 小学生指導者養成講座　8/17～8/20（京都） レフェリー・トレーナー研修会　8/20（福島） ＪＨＡレフェリーコース(後期)　8/22～8/24（東京）
9	第20回全日本自衛隊選手権　未定（東京）	ＡＨＦ、ＩＨＦ総会　9/10～9/15（ソウル） ソウルオリンピック(ハンドボール)　9/20～10/1（ソウル）	審判員海外研修　（未定）
10	第43回国民体育大会　10/16～10/20（京都） 第13回日本リーグ　前期　10/29～11/26（各地）		レフェリー・トレーナー研修会　10/18（京都）
11	第31回全日本学生選手権　11/1～11/6（福岡）		
12	第40回全日本総合選手権　12/15～12/18（東京）		国際審判研究会　12/16（東京）
64/1	第13回日本リーグ　後期　1/28～3/5（各地）		審判審査委員会　1/6～1/8（東京） 審判部合同委員会　1/7～1/8（東京）
2	第20回実業団トーナメント　未定（大阪）	男子Ｂ世界選手権　2/15～2/26（フランス）	コーチ講習会(外国人講師)　2/4～2/8（東京） 公認指導者講習会　未定
3	Ｓ.63.全国高校選抜　3/23～3/27（名古屋）		公認審判員中央研修会　3/26（東京） ＪＨＡレフェリーコース(前期)　3/28～3/30（東京）

「日本ハンドボール史」購入の申し込みをお早めに

みなさますでに御承知のように、日本ハンドボール協会創立50周年を記念しての「日本ハンドボール史」が、今春無事完成致しました。

この冊子は、右の内容を御覧いただいてもわかりますように、日本ハンドボール界の50年の歩みを余す所なく御紹介するとともに、これまで埋もれていた様々なエピソードを紹介し、記録としても、読物としても大変興味深いものとなっております。

これまで日本ハンドボール界のために尽くしてこられた方々にも、また、今後日本ハンドボール界を背負っていただく方々にも、是非御一読いただきたいと思います。

〔「日本ハンドボール史」の主な内容〕

〔体裁〕 Ｂ５判　880頁　ケース入り

〔主な内容〕

- 日本ハンドボール50年の歩み
- 47都道府県協会史
- 全国連盟・団体の歩み
- ハンドボール史を彩るエピソード
- 全国大会の記録をすべて
- 海外の主要な大会（オリンピック、世界選手権、アジア大会など）の記録

〔定価〕　7000円

※次第に残り部数が少なくなってきておりますので、御希望の方は、なるべく早めに下記宛お申し込み下さい。

〒150東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育館内
㈶日本ハンドボール協会
「日本ハンドボール史」係
TEL　03-481-2361